

スポーツ庁 令和5年度調査研究事業

熱中症対策状況調査 分析とりまとめ

【調査の概要】

①調査目的

日々スポーツ活動を行っている市区町村レベルの競技団体やそれらの競技団体が加盟する体育・スポーツ協会において、熱中症対策のための対応がどの程度なされているのか状況を把握する。

②調査方法：WEBアンケート

都道府県体育・スポーツ協会を經由して市区町村体育・スポーツ協会および市区町村競技団体に対しアンケートフォームのURLを配布。
各協会や団体は、スマートフォンやパソコンからアンケートフォームアクセスして回答を入力。

③調査対象

- ・全国の市区町村体育・スポーツ協会
- ・全国の市区町村競技団体

④調査時期

2023年11月～12月

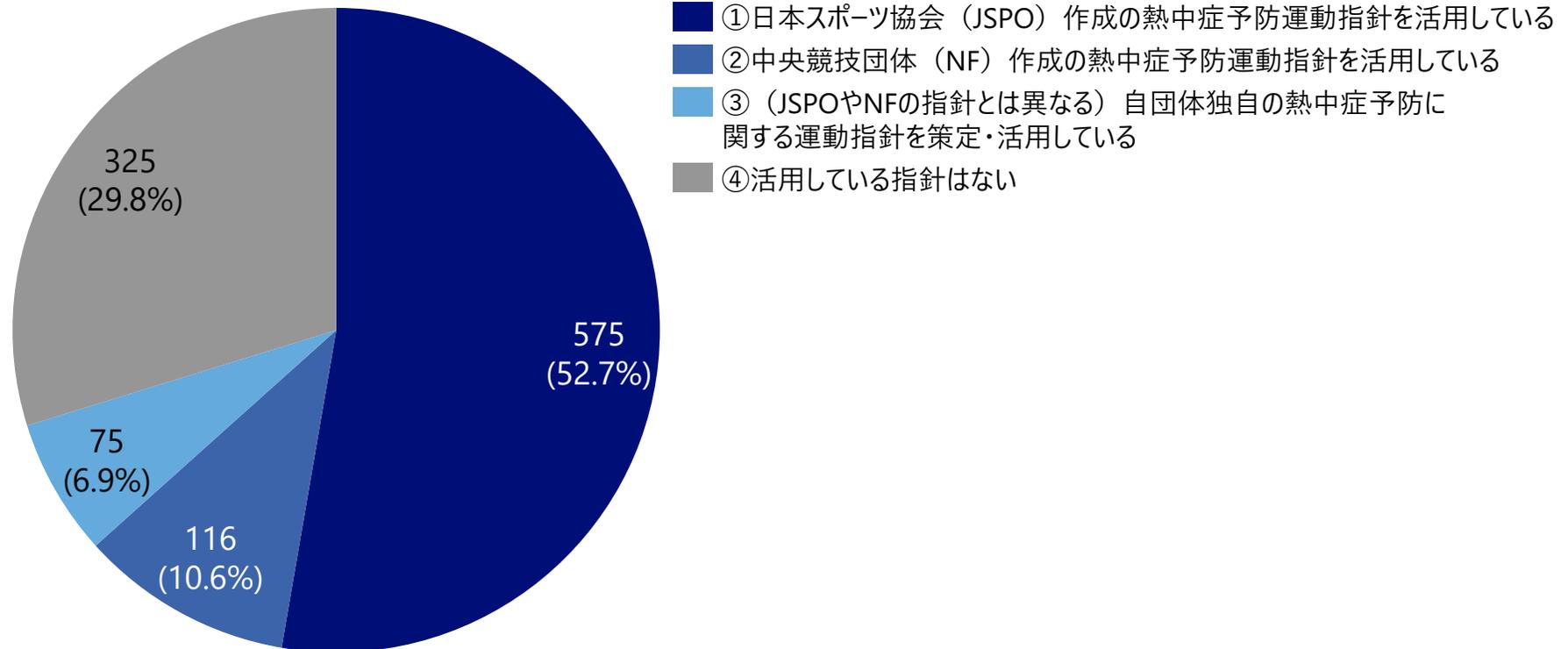
熱中症対策状況調査

大会等の開催や日常のスポーツ活動の実施可否の判断基準として、日本スポーツ協会作成の熱中症予防運動指針を活用している団体が約53%と半数を占める。

中央競技団体の指針を活用している団体は約11%、独自に定めた指針を活用している団体は約7%

Q1. 大会等の開催やスポーツ活動の実施判断基準 (n=1,091)

- 熱中症予防対策の観点から、大会等の開催や日常のスポーツ活動の実施の判断基準として、どのような指針を活用していますか？



熱中症対策状況調査

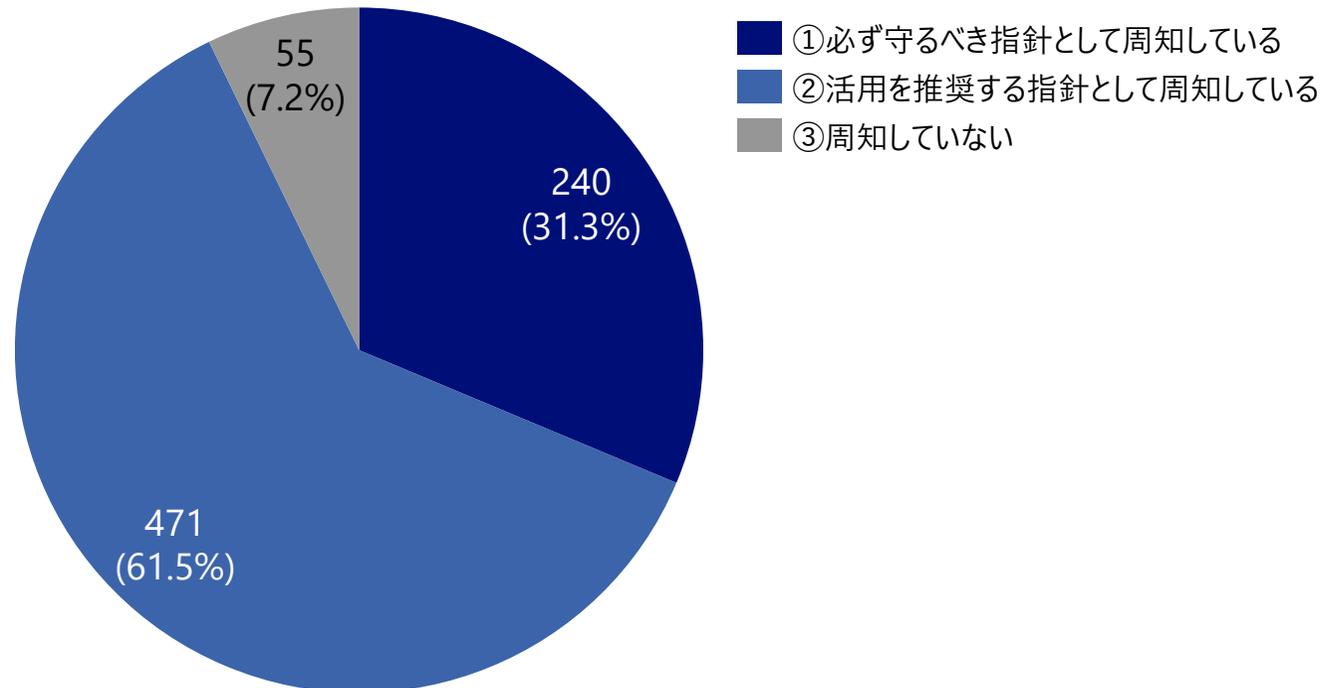
約93%の団体において、自団体に加盟しているチーム・団体に対し熱中症予防運動指針の周知を行っている。

Q2. 加盟チーム・団体に対する熱中症予防運動指針の周知状況 (n=766)

- 加盟しているチーム・団体に対し、日常のスポーツ活動（練習・練習試合）の判断基準として、活用していると回答した熱中症予防運動指針を周知していますか？

※Q1で下記のいずれかを回答した方のみ回答

- ・「①日本スポーツ協会（JSPO）作成の熱中症予防運動指針を活用している」
- ・「②中央競技団体（NF）作成の熱中症予防運動指針を活用している」
- ・「③（JSPOやNFの指針とは異なる）自団体独自の熱中症予防に関する運動指針を策定・活用している」



熱中症対策状況調査

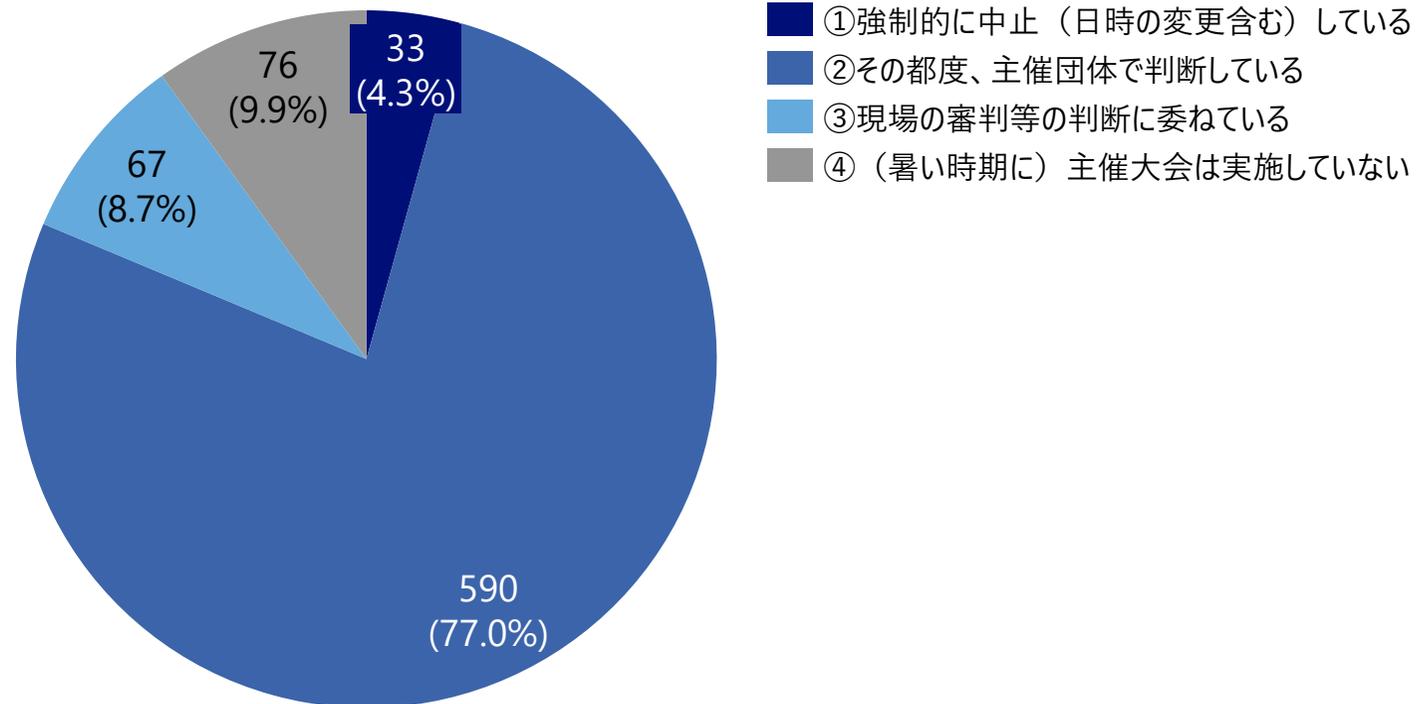
熱中症予防指針における運動可能基準を超えた場合の対応について、主催団体や現場の審判で判断している団体が約86%。強制的に中止し安全を確保している団体も約4%みられた。

Q3.運動可能基準を超えた場合の主催大会での対応（n=766）

- 活用していると回答した指針における運動可能基準（例：WBGT31℃）を超えた場合、主催大会では実施・中止についてどのように対応していますか？

※Q1で下記のいずれかを回答した方のみ回答

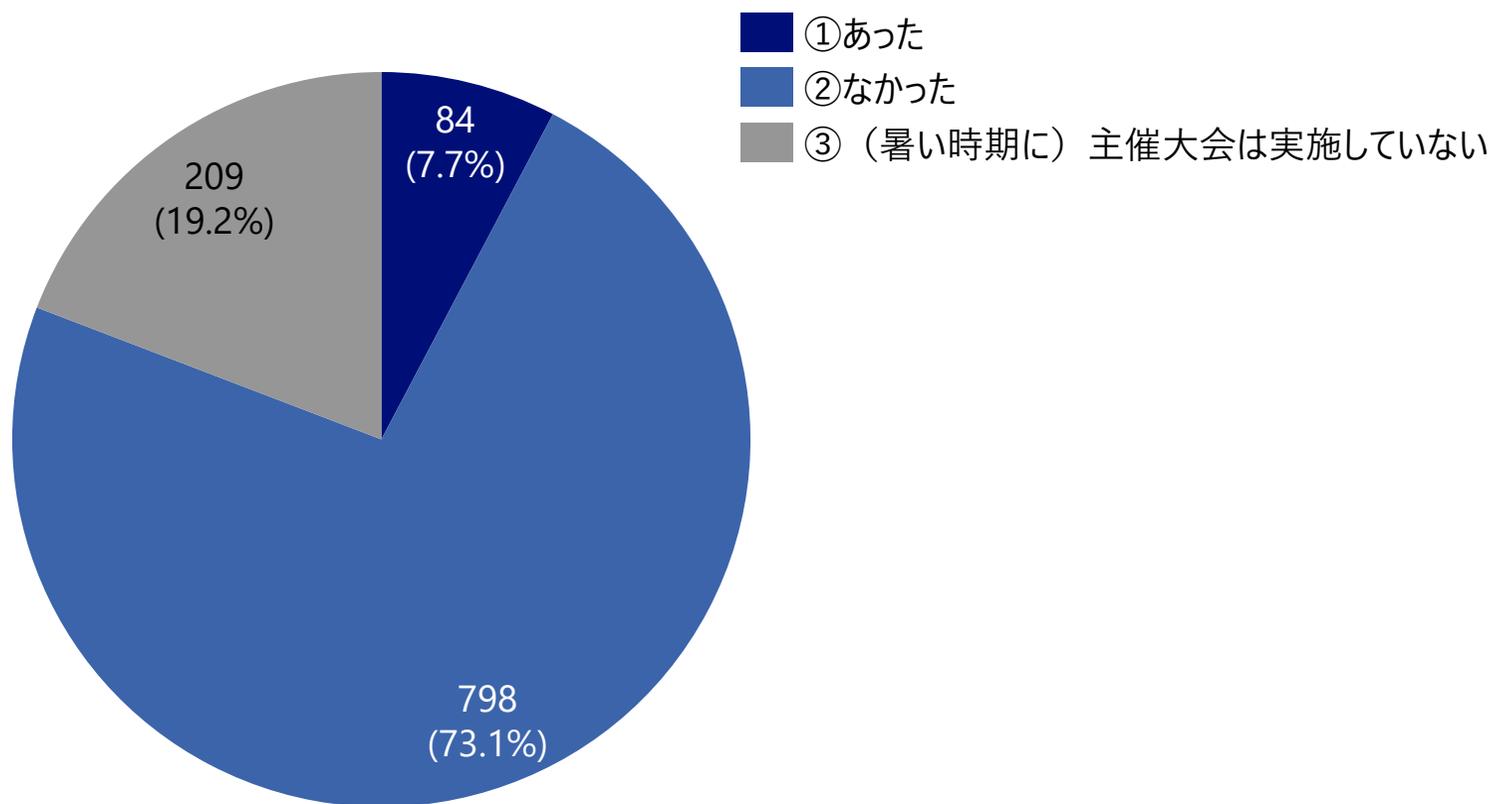
- ・「①日本スポーツ協会（JSPO）作成の熱中症予防運動指針を活用している」
- ・「②中央競技団体（NF）作成の熱中症予防運動指針を活用している」
- ・「③（JSPOやNFの指針とは異なる）自団体独自の熱中症予防に関する運動指針を策定・活用している」



約8%の団体では、2023年に暑さを理由に主催大会を中止した事例があった。

Q4. 暑さを理由にした主催大会中止実績の有無 (n=1,091)

■ 今年、暑さを理由に主催大会を中止（日時の変更含む）にしたケースがありましたか？



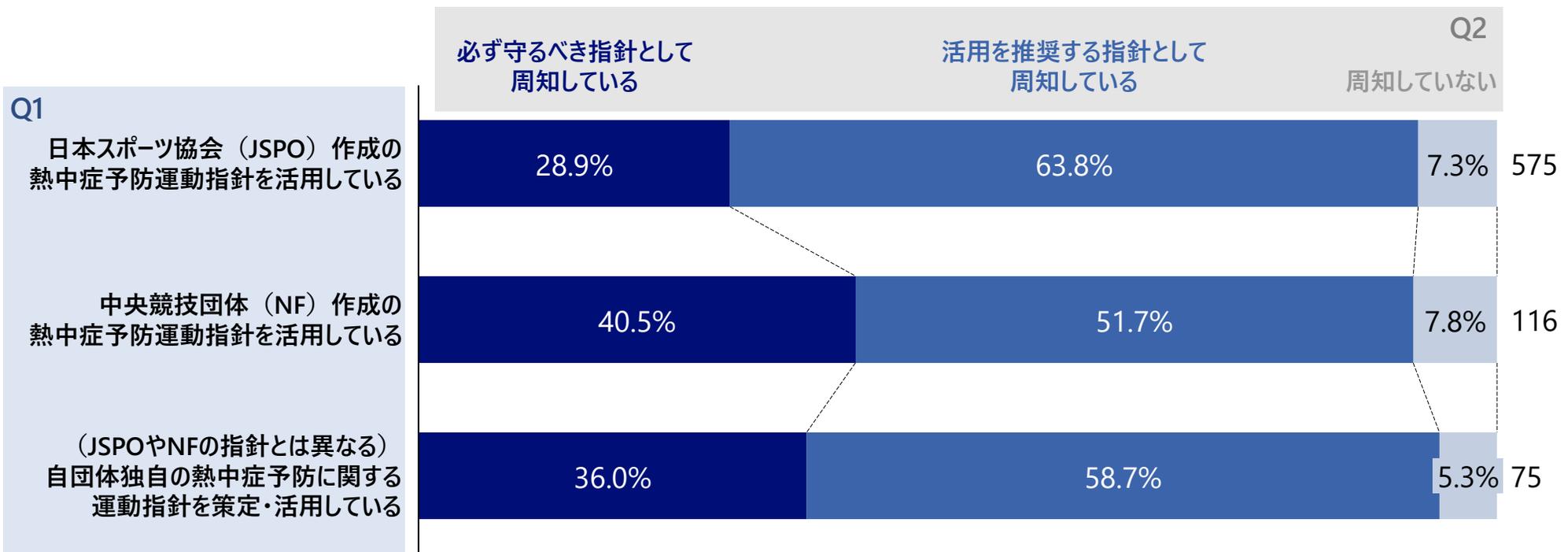
追加分析（設問間クロス集計）

熱中症対策状況調査

中央競技団体作成の指針を活用している団体は、
活用している熱中症予防運動指針を「必ず守るべき指針として周知している」割合が最も高い。

活用している指針と活用状況 (n=766)

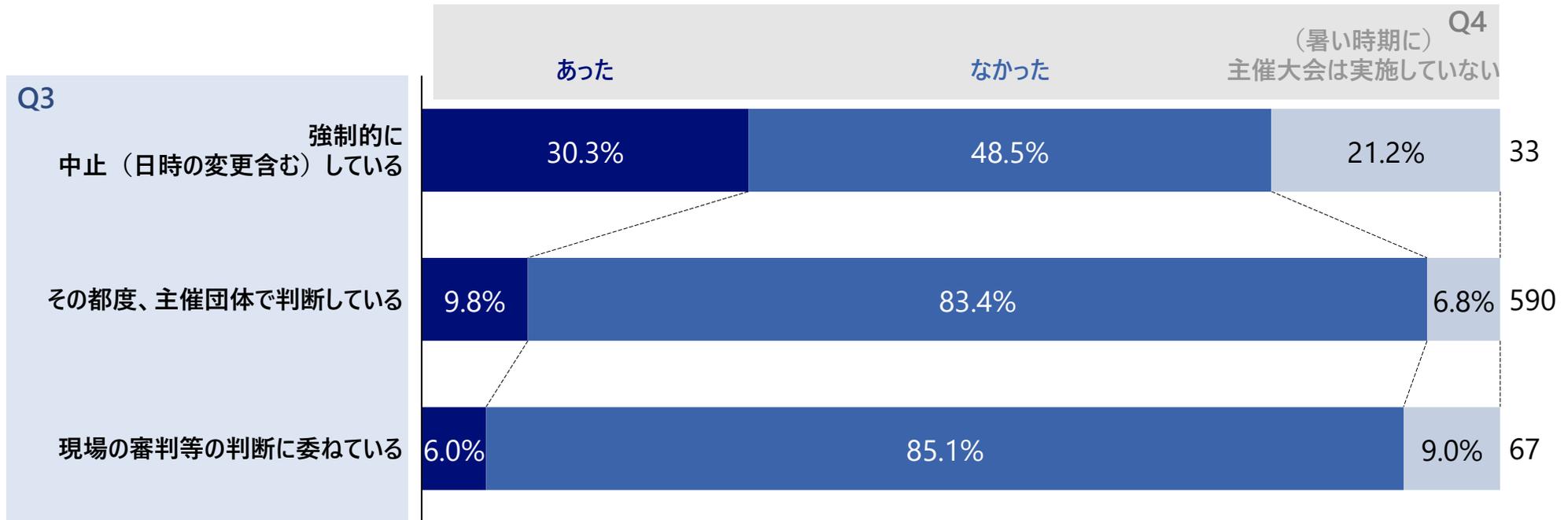
- Q1.熱中症予防対策の観点から、大会等の開催や日常のスポーツ活動の実施の判断基準として、どのような指針を活用していますか？
- Q2.加盟しているチーム・団体に対し、日常のスポーツ活動（練習・練習試合）の判断基準として、活用していると回答した熱中症予防運動指針を周知していますか？



活用している指針の運動可能基準を超えた場合に主催大会を「強制的に中止している」団体は、暑さを理由に主催大会を中止した実績がある団体の割合が他の選択肢を回答した団体よりも高い

主催大会の実施判断可否方法と主催大会中止実績の有無 (n=690)

- Q3.活用していると回答した指針における運動可能基準（例：WBGT31℃）を超えた場合、主催大会では実施・中止についてどのように対応していますか？
- Q4.今年、暑さを理由に主催大会を中止（日時の変更含む）にしたケースがありましたか？



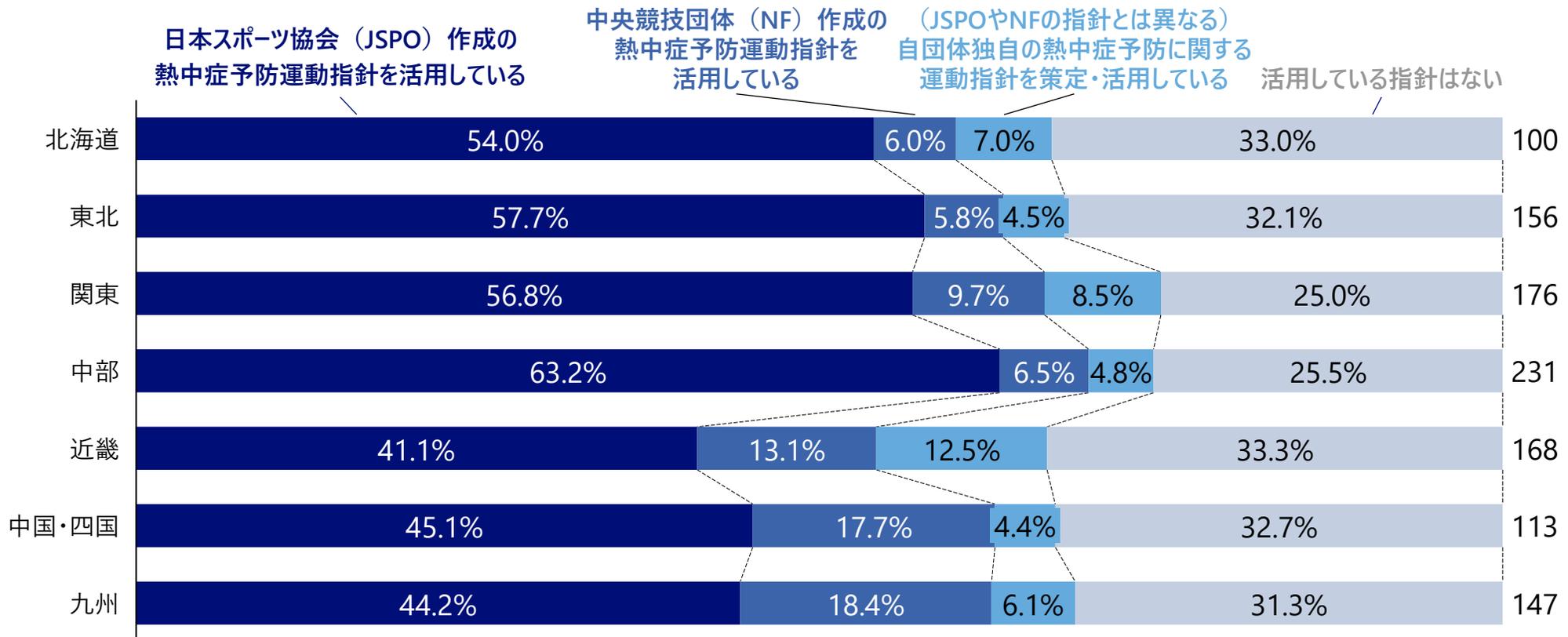
追加分析（地域別クロス集計）

熱中症対策状況調査

中央競技団体の指針を活用している団体の割合は、近畿、中国・四国、九州が高い。
団体独自の指針を活用している団体の割合は近畿が最も高い。

Q1地域別集計 (n=1,091)

■ Q1.熱中症予防対策の観点から、大会等の開催や日常のスポーツ活動の実施の判断基準として、どのような指針を活用していますか？

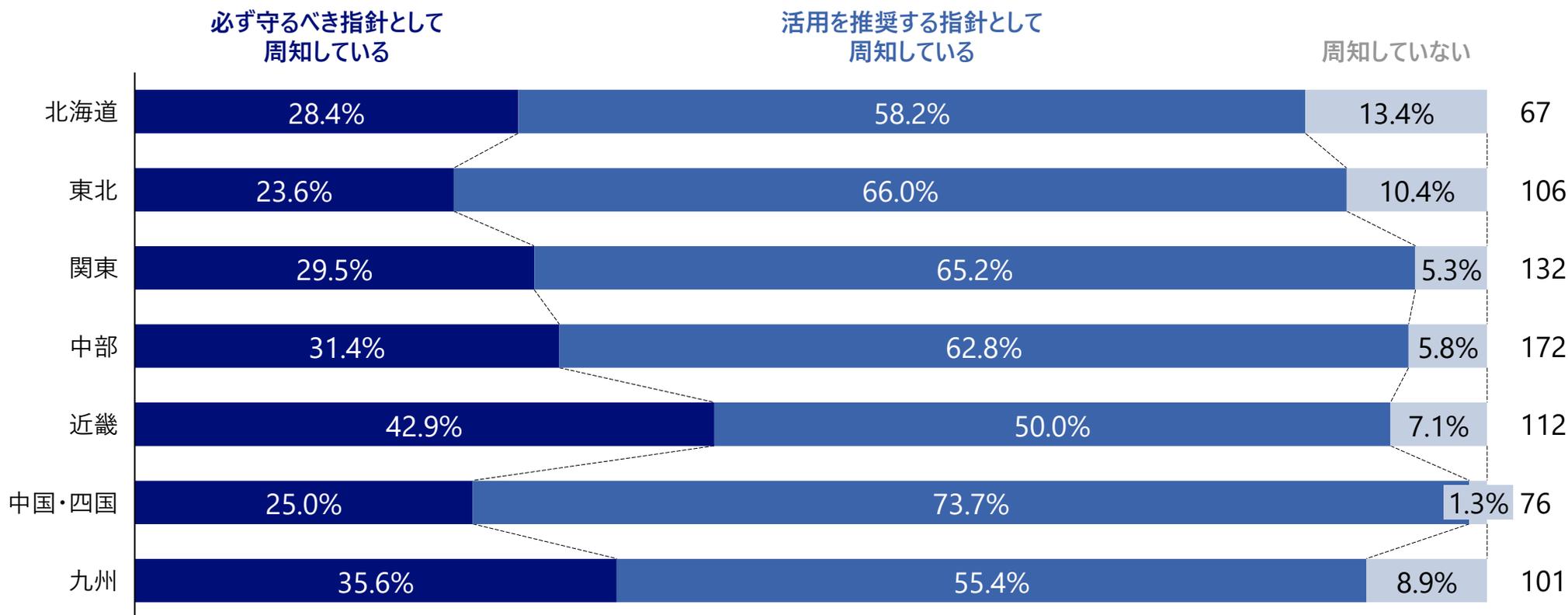


熱中症対策状況調査

自団体に加盟しているチーム・団体に対し指針を「必ず守るべき指針として周知している」団体の割合は、近畿が最も高い。

Q2地域別集計 (n=766)

- Q2.加盟しているチーム・団体に対し、日常のスポーツ活動（練習・練習試合）の判断基準として、活用していると回答した熱中症予防運動指針を周知していますか？

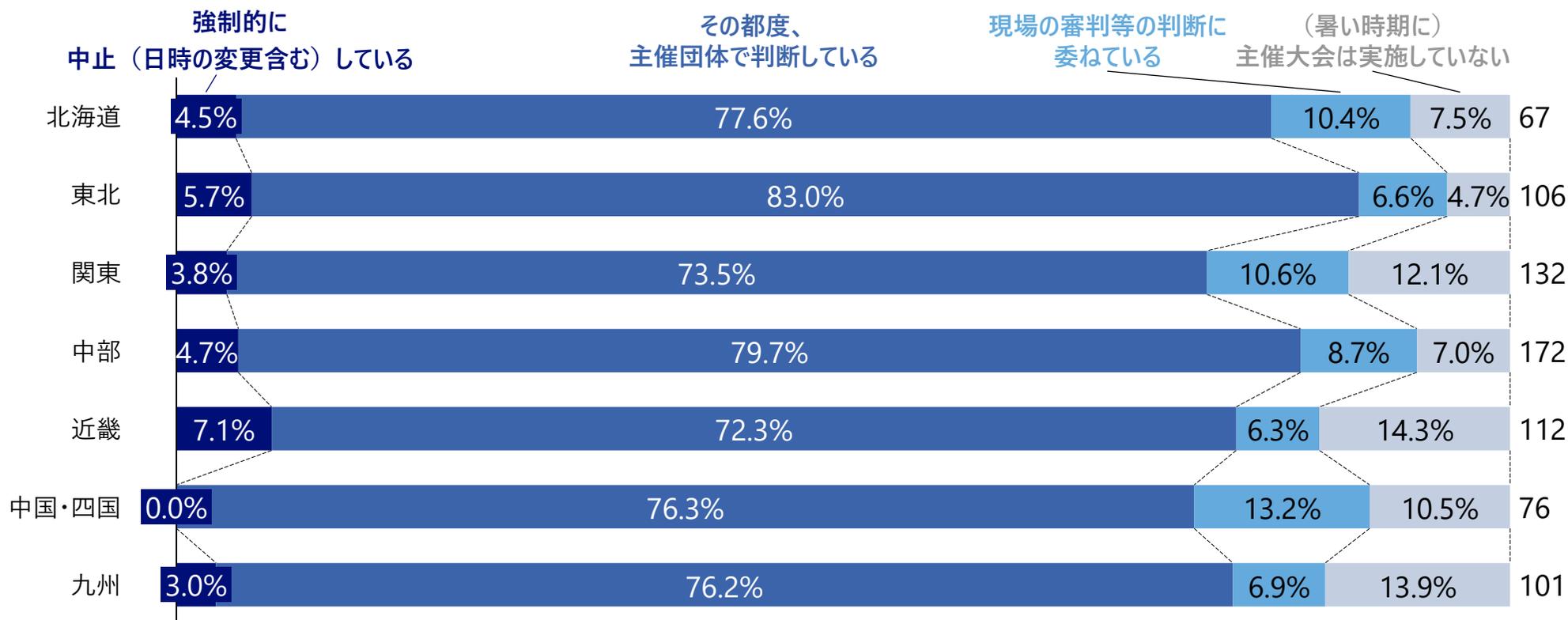


熱中症対策状況調査

指針の運動可能基準を超えた場合、主催大会を「強制的に中止（日時の変更含む）している」団体の割合は、近畿が最も高い。

Q3地域別集計（n=766）

- Q3.活用していると回答した指針における運動可能基準（例：WBGT31℃）を超えた場合、主催大会では実施・中止についてどのように対応していますか？



熱中症対策状況調査

暑さを理由に主催大会を中止にした実績のある団体の割合は、東北が最も高く、中国・四国、九州が低い。

Q4地域別集計 (n=1,091)

■ Q4.今年、暑さを理由に主催大会を中止（日時の変更含む）にしたケースがありましたか？

